

平成27年度 第2回

川合市長と語り合うタウンミーティング

～ 霞ヶ関北地区 ～



日時：平成27年8月20日(木)

午後6時30分～8時00分

場所：西文化会館

参加者

霞ヶ関北地区 21名（市議会議員1名）

出席者

市長、副市長、政策財政部長、総務部長、危機管理監、市民部長、福祉部長、都市計画部長、建設部長、学校教育部長

意見数

分類	件数	内容	頁
保健・福祉・医療	3	公民館に児童館機能を持つフリースペースの開設	8
		福祉ボランティア支援	11
		介護予防における、自治会館の必要性	16
教育・文化・スポーツ	3	史跡・ビオトープの整備	9
		子どもサポート委員会等でのボランティア不足	10
		学校、地域間の人的支援	14
都市基盤・生活基盤	1	JR川越線的場駅北口開設と運転本数増加	2
地域社会と市民生活	4	霞ヶ関西自治会館新築整備要望	3
		地域会議等の事務を担当する職員の配置	4
		空き家対策	6
		自治会館修繕補助事業の補助範囲の拡大	9
行財政運営	1	自治会別人口割合の開示	7
その他	1	霞ヶ関北地域会議の取り組み状況	2
計	13		

意見交換（要約）

《霞ヶ関北地域会議の取り組み状況》

意見 今日はお忙しい中、川合市長を始め、皆様方にご臨席賜りまして本当にありがとうございます。

霞ヶ関北地域会議では、青少年部会、防犯部会、高齢者部会という3つの部門を用意しています。それぞれ正副部会長を2名ずつ採用して、幹事会の中に入れていきます。幹事会というのは会長、副会長、会計、正副部会長で構成されており、その中で幹事会というのを開きまして、全体会でやっていきます。

今後の予定をどうするのかということが先日出まして、10月をめどに、各部会から2つか3つ、問題点を挙げていただいて、それで11月に幹事会を開催し、2月に全体会に持っていきこうという運びとなっております。

どんな問題かということ、みんなに共通するような問題ですね。子供の見守り、青少年問題。福祉の子供ということ、民生委員とか防犯も福祉も関わってきます。皆さんが同じような課題を持っていると思うので、できることから少しずつ地道にやっていきたいと思っております。あまり急いでやっても、失敗する可能性がありますので、私たち霞ヶ関北地区は、地道にできるところは少しずつやっていきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

市民部長 どうもありがとうございました。

《JR川越線の的場駅北口開設と運転本数増加》

意見 平成25年8月に、的場駅周辺整備に関するアンケート調査の集計結果というのが出されました。その中で60%以上の方が、的場駅北口を利用する人で、ここに北口があったほうが良いということでありました。数年前からの的場駅に北口を、とお話ししていましたが、その後に東京オリンピックが開催されるようになりまして、笠幡駅を先にやられるということが広報に載っていました。

（北口があれば）私の家から2分ぐらいで駅に行けますが、ぐるっと回ると7分くらいかかってしまうんです。ですから、何でも良いので向こうにかけてもらえれば、エスカレーター、エレベーターみたいなものをつくってもらえば便利になってくると思います。

それから、電車の本数も今まで1時間に3本、平均的にあったんですけども、時間帯によって2本に減ってしまったんです。利用者が多くなってきているのに、だん

だん電車は減らされています。以前は遅く出ても約束の時間に間に合ったのに、今は早く行かなければならないので、本当に不便を感じております。その点、よろしくお願いいたします。

市長 ご要望として承っておきます。

オリンピックに向けて、いろいろなことができれば一番良いのですが、川越の霞ヶ関カンツリーでオリンピック競技が行われるということが決まったからといって、国あるいは県のほうから、これはオリンピック対応で使ってください、という、そういうお金がごそっと来るというわけでは全くないんですよ。したがって、道路の改修であるとか駅の改修、そういうものを基本的には全て市がやらなければならないということなんです。

笠幡駅は霞ヶ関カンツリーまで歩いていける駅でございますので、一定程度の乗降客の増加は考えておかなければなりません。ですから、駅前広場をつくって、そこから霞ヶ関カンツリーまで歩いて行く道路を整備するということには、既に手をつけ始めています。それから、県道日高線の渋滞箇所について、何とかオリンピックまでに交差点改良を1カ所でもやりたいということで話を進めています。

的場駅については、オリンピックを契機に、ということには難しい面がございます。整備に手をつけるには若干時間がかかるというのが正直なところでございます。

《霞ヶ関西自治会館新築整備要望》

意見 私たちの自治会は、今、自治会館がない状態です。伊勢原のほうに消防署が行っておりますけれども、以前は消防署が私どもの自治会の中にありました。その跡地と建物を借りて自治会館として使っていたのですが、平成21年ごろですか、県道の拡幅に伴って、その土地は拡幅工事に伴う代替地にするので、市に返していただきたい、ということで返してしまいました。今は民間のところをお借りしています。

自治会館がなくても、自治会の仕事はしています。防災、災害のときの支援者のこと、あるいは国勢調査のこと、やることはちゃんとやっているんですけども、ただ、自治会館がないと不便なところがたくさんあるし、思い切っていろいろなこともできない。それで、今考えているのは、現在あります霞ヶ関北公民館が老朽化のために、かほく運動公園の方に移ろうとしている計画があるということなので、そちらに移ったら、その跡地の一画、ほんの隅っこでいいですから借用して、そこを自治会館としたいということなんです。

ほかのところみたいに、財政的に豊かなところは民有地を買って、建物を造ったり、いろいろとやっているのですが、うちのところは財政的にちょっと苦しいんです。市の土地をお借りして、建物ぐらいは今ちょっと積み立てをしてやっているの、市民部長などと相談しながら、将来的には自治会館を建てたいというのが夢なんです。お答えはいただかなくて結構なので、よろしくお願いします。

意見 今のことに関連しますが、消防署の跡地を金網だかで囲ってありまして、今のところ何も使用目的がないみたいなのですが、その場所は何か使い途があるのでしょうか。もしなかったら、それを自治会に貸してもらっても良いのではないかと思うのですけれども。

建設部長 今のお話は角栄団地入り口を入った、もとの消防署の跡地のことですね。あそこにつきましては、先ほどお話にもありましたとおり、現在進めております県道川越越生線事業の代替用地でございまして、今のところ1名の方にその代替用地ということで事業を進めているというところでございます。ですから大変申し訳ありませんが、ご理解いただきたいと思えます。

《地域会議等の事務を担当する職員の配置》

意見 川越市の職員で、定年退職をされて再雇用をする方の派遣先として、甚だ勝手な考えなのですけれども、これから要望が出てくる各支会に事務職員として派遣をする道を考えていただけないでしょうか。これは市の場合は総務部長になるのか人事部長になるのかわかりませんが、ひとつ市長さんのお考えをもとにして、そういうシステムをつくっていただければ大変ありがたいなというふうに思っています。

ご承知のように霞ヶ関北地域は高齢化率が非常に高いところで、ある自治会では46%。霞ヶ関東1丁目から5丁目までは32%、その後少し余裕がありますけれども、20%台で高齢化率が進んでいます。そういうことです。自治会の役員を含めて、ボランティアの精神を豊かに持っている方が年をとったために、なかなか行政のお助けができないというようなことがあります。ですので、定年退職で、もしおやめになるのであれば、有能な方を派遣していただければ非常にありがたいなというふうに思っています。

地域会議を成功させるために特に強調したいのは、事務処理が当然増えてくるといことです。事務処理が増加することで地域会議を管轄している各センター長がさらに忙しくなり、肝心の地元住民に対するサービスが落ちては困ります。勝手ではあり

ますが、是非そういう道をつくっていただければ大変ありがたいなというふうに考えております。

市長 再任用の職員というのは要するに市の職員ですから、給与を払って、公務員として公務員の服務規律に従ってもらうのですが、そういう人を出してほしいということですか。

意見 そうということです。

市長 そうですか。それが可能なのかどうか、その辺りは検討させていただかなければならないと思うのですが。

意見 前の市民部長が地域会議をやったときに、市民センターに1人は配置しますというふうに約束してくれたんです。センター、地域会議を通して1人を用意しますということでしたので、よろしくをお願いします。

市長 サポートという形で、それぞれのセンター長なりなんなりがつかますという、そういう趣旨ではなかったですかね。

政策財政部長 今、併設公民館は市民センターの中で11カ所あります。例えば名細などは新しい形で、事務所では公民館の職員と元出張所職員が一体化した組織として動いているわけなんです。霞ヶ関北公民館も、元出張所も、市民センターという位置づけの中で、場所は離れていますけれども、組織としては一緒なんですよね。

公民館の職員が今後の業務を進める中で、公民館のあり方について、今、教育委員会で検討しています。単独の公民館は川越市に6つありますが、そのような館が公民館事業を主体的に取りまとめ、グループ化して公民館事業をやっていこうとしています。そうなりますと、併設している公民館につきましては、目的が若干薄れてきますので、そちらにつきましては、今度は地域担当の職員を位置づけ、その方に専属でこの地域会議の事務を執り行っていただくという考え方で進んできたのだと思います。

そういったことが誤って伝わっていたのかもしれませんが、今、進んでいる方向としては、公民館職員の負担が若干減りますので、その中で地域担当職員という役割を明確化した職員を位置づけ地域会議を主で行い、皆さんと地域のことを議論してまとめていくという役割の職員を配置できたら、ということで検討しているところでございます。機能がまだ十分でないというところは理解しておりますので、取り組んでいきたいと思っています。

《空き家対策》

意見 市でも取り組んでおられると思いますけれども、空き家の問題があります。これは霞ヶ関北支会で完全に調査したわけではありませんけれども、推定で140から150の空き家があるのではないかと思います。世帯数は大体7,000ぐらいですから、その中でそれだけの空き家があるということは、本来そこに住んでいる方が高齢のために施設に入ったりというようなことがあって、ご家族の方がたまに来て、窓をあけて風通しをしているというようなところもありますし、あるいは税金対策で、なかなか思うように展開ができないというようなこともあろうかと思います。地域の力をこれからもっともっと強くしていくためには、そういう空き家に希望する人には是非入っていただいて、有効活用をしていったらどうかと。それにはやはり市のお考えもあるでしょうし、それに従って、我々もまた動いていくわけですから、協力することはやぶさかではありませんけれども、まずその空き家問題に対して、条例を含めてどうするのかということ、もうそろそろ明らかにしていただいたほうが良いのではないかと思います。

新聞記事によりますと、埼玉県は35万世帯の空き家があるそうです。川越市はどのくらいあるのか、ちょっと実数はわかりませんが、多分それにならって、かなり大きな数字があるのではないかと思います。どうかひとつこの点を含めて、地域の活性化ということをあわせて考えていただければ大変ありがたいと思います。

市長 空き家問題について、市民部長から。

市民部長 空き家問題を現在所管しておりますのは市民部の防犯・交通安全課というところです。総務省の統計調査である住宅土地統計調査というものによりますと、平成25年に1万7,500戸、川越市内には空き家があると言われましたので、今おっしゃっていただきました百幾つというのは決して多くはありません。もしかしたら、もう少し調べると、数としてはさらに出てくるのかなというふうに考えてございます。

空き家につきましては、「川越市空き家等の適正管理に関する条例」というのを制定はしてあるのですが、今年度、国で「空き家対策特別措置法」という法律ができて、市町村の義務といたしまして、空き家の利活用とかに関することを検討するよというところが法の中で定められた部分もございまして、法律で定めるほど、空き家というのは全国的に問題になっているという状況がございまして、川越市としても、これは行政だけではどうにもならない問題ですので、行政と地域の皆様と、それから、空き家を利活用するためには、民間の事業所のみなさんにも一枚かんでいただ

かないとできない部分がございますので、そういった形で使える空き家については有効に使っていく。それで老朽化した、朽ち果ててどうにもならないというようなものについては、除却なり適正な管理をしていただくような方向にもっていききたいというふうを考えてございます。

意見 実は私が住んでいるところは14世帯のうち3世帯が空き家なんです。3世帯のうち2軒は立派な家なんですよ。そこも住んでいた方が1軒は亡くなり、1軒は施設に入っているというようなことでして、お子さんに会ったときに、「少し貸してあげたらどうですか。」とそういう話はしています。散歩で見ていると、本当に空き家が目立つと寂しいですね。そういうことで、いろんな条件があるのはわかった上でお願いをしています。

市長 空き家、特に草木がうっそうと茂ってしまうような、そういうようなものが増えてくると、防犯上、あるいは治安上も問題があるということがございます。そのような点について、十分条例をつくってあるわけですから、しっかりとやっていきたいと思っています。

今、ふと思ったのですが、空き家で適正な規模のものがあれば、当面の自治会館として、そういうのを借りるというのも一つの方向ではないかと。当面の間ですよ。借りるについては補助か何かあるでしょうか。

市民部長 申し訳ありませんが、建物を借りることについて、補助はなかったように思います。土地については補助制度があるのですけれども、建物については現時点ではなかったと記憶してございます。

市長 もしそういうケースというか、希望が増えてくれば、それなりにこちらとしても補助を出すようなことを考えていきたいというふうに思っています。

意見 ちなみに、そのうちの1軒は非常に立派な家で、デイサービスに使えるのではないかなという感じもあります。何かそういうのも調べていくと結構あるのではないかなと感じています。

《自治会別人口割合の開示》

意見 今、川越市のホームページでは、例えば伊勢原5丁目の居住者、5歳刻みぐらいでリストを出せるようになっていたと思うのですけれども、そちらは伊勢原町5丁目全体での数字なんです。ですから、自治会ごとに絞ったものを紙でいいから出してくださいというお願いをして、5年前にいただいたことがあります。そこからもう5

年たっていますので、今年、またもらいたいということでお願いしたところ、市民課から「出せません」と言われてしまいました。そこを何とか、居住者の数字をとれるようにお願いしたいです。自治会活動をする上で、やっぱり人の数字というのは重要だと思っております。

市長 人数だけでいいのですか。

意見 5歳区切りでの人数、男女別に、ですかね。

意見 その件について市民課から言われているのが、5歳刻みでやっていくと、最終的にどうしても90歳以上とかが1人とかになってしまった場合に、どうしてもその人が特定されてしまいます。それは個人のプライバシーに抵触するので、そこまでは出せない、というか、市全体で見ると大きいので5歳刻みのところが1人ということはある得ないので、そこは表示ができるのですけれども、小さくなればなるほど、明確に誰だということがわかってしまい、よろしくないという判断で、そのような理由で、出せないということでした。

市長 今のお話について、そういうご要望があるというのを私は初めて聞きました。今、話に出た理由というのが、聞いていて、私もどうしてかな、という感じがするので、検討させていただけますか。

意見 よろしくお願ひします。

市民部長 今の人口構造につきましては、少しこちらで調べさせていただいて、また市民センター経由でご連絡をさせていただきたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

意見 5丁目の中に自治会が4つ入っています。それが全部ひっくるめてその数字になっていますので、自治会として、自分の自治会に何歳が何人いるとかというのは当然知る必要があると思ひます。

自治会内の人口が知りたいというご要望だと思ひますので、そのところをご理解いただきたいと思ひます。

《公民館に児童館機能を持つフリースペース開設》

意見 公民館は予約制度であって、お年寄りとか、そういう方が全部埋めている状況なのですが、昔、私たちのときには児童館というのがあったかと思ひますね。その中に1部屋でも子供のための部屋を、いつでも予約なんかしなくても使えるような、そんなものがあつたらうれしいなと思ひますね。そういう話はたびたび公民館の運

営審議会とかで出るんですけれども、そうしましたら、そこに誰が責任者としているのかということが必ず問題になるんですね。いろいろな組織が誰か順番に出しても、責任のとり方がとても難しく、できれば公民館の職員にいてもらうとか、職員の仕事として、そういうことがしてもらえたら、それが可能なのかなと思うんです。小学生とか子供たちの行き場がないというところで、それを考えてもらいたいと思います。

《自治会館の修繕補助事業の補助範囲の拡大》

意見 自治会活動の手引きによれば、自治会の修繕に関して3分の2を補助していただけるというのがあります。財政難の折に3分の2というのは、私たち自治会長にとってはとてもうれしい話なんですけれども、限度額が200万円であり、これに関しては、エアコンなどの自治会館の内部設備にしか適用されないということなんです。高齢化になっていく中、自治会館にスロープなどが必要になってきており、私どもも今必要です。高齢者に対しての支援ということで、そのようなスロープの設置に関して補助金を充てられないものか、お考えいただきたいと思いました。

自治会館は災害時に避難場所になるということもありますし、車椅子の方もふえていらっしゃる、軽量の車を押して来る方もいらっしゃる、酸素ボンベを持ちながらという方もいらっしゃる。そういう中で階段をのぼるのは難しいと思います。是非、補助の中にスロープも入れていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

市民部長 自治会の集会所の増改築と修繕の補助金の内容についてご意見をちょうだいいたしました。今、その費用の3分の2で200万円の補助を実施しているところなんですけれども、おっしゃるとおり、建物に関する部分というふうに限定させていただいております。平成26年度には、かなりの自治会館の老朽化が進行しまして、屋根から雨漏りがするなどということで、26年あたりでも3,000万円ぐらいの多額の補助になっており、年々ふえている状況がございます。そういったことと、ご要望の趣旨を踏まえまして、持ち帰りまして検討させていただきたいと思います。貴重なご意見をありがとうございました。

《史跡・ビオトープの整備》

意見 私は、川越市はもっと文化的な都市になれば良いと思っております。そして、子供が川越に生れてよかった、また霞ヶ関東小に通えてよかったと思えるような学校

にしたいと思っております。そのためにも、前年度は上戸小にいたのですが、上戸小には河越館跡史跡公園があり、川越町ができる前に発展したということで、子供たちに誇りを持ちなさいという話をしました。そして、今年は霞ヶ関東小学校にありますが、伊勢物語に出てくる牛塚古墳とか、そういう歴史的なものがいっぱいあるのだということを教えてもらいました。そして河越館跡の前に霞ヶ関では、奈良時代から発展してきたということで、そういうことに誇りを持たせたいなと思っております。そこで、そういう史跡などについて、もう少しわかりやすく表示をしたり、あと鎌倉街道もありますので、霞ヶ関から上戸にかけて、史跡の表示をもっと大きくして、川越城が川向うだとすると、霞ヶ関のほうは奈良時代からできてきているんだということ、子供たちとともに感じていきたいなと思っております。

そして本校には、川越市で1つだけビオトープがあります。ビオトープを守るために井戸水を掘ったりしておりますので、こういうところも学校の特色としていたいなと思っております。文化的、歴史的、それから自然がいっぱいあるこの地域を大切に守るような子供を育てていきたいなと思っております。

市長 ありがとうございます。

河越の館跡等については、もう少し広く周知というか、宣伝をしなければならないということ、観光スポットとして活用していく、そういう方法も順次考えていかなければならないというふうに考えているところでありますので、これからしっかりやっていきたいと思えます。

《子どもサポート委員会等でのボランティア不足》

意見 教育委員会の子どもサポート委員会の会合の中で、人不足といいますかボランティア不足をどうするかということが議題に上がっています。子ども地域会議の中で一番大きいのは、地域の人材をどうするかということです。それさえ何とかなれば、いろいろなことの手が打てます。では、どのようにして増やしていくのか、これから検討するのですが、私個人の意見として言ってしまうと、それをつくるシステム、組織がないということだと思います。たまたま手を挙げた人が今、ボランティアになっていて、何年もやって高齢化しています。私もいまだに子供を見守っており、ほぼ毎日、どこかの小学校に行き、朝のあいさつ運動から始まって、ビオトープづくりやその再生に取り組んでいるところで、そういったものが教育にどんどん活用されればよいなと思っているところです。

地域の中でボランティアを募るには、集まる場所が必要になるかと思います。第1段階では何でもいいから、とにかく人が集まるものをつくっていかなくてはいかんと。それが料理教室であれ、あるいは男の料理教室であれ、(そのようなものを企画する)コーディネーターが必要だろうと思います。そして、第2段階はボランティアのお声かけだと見えています。

それには人材をどのようにしてつくっていくかということになると思います。手助けをする人が必要だとすれば、そういう制度かポジションかわかりませんが、何らかの形で行政の手がちょっと入って、私たち地域のボランティアが組んで、そういうチームをつくっていけないかなと思います。

そういう方たちが集まれる部屋なのか、ボランティア交流クラブなのか部屋なのかわかりませんが、そんなものを時間、場所を限って、その地区で月に何回か開いていけたらと思います。そして、それを盛り立てるコーディネーターが必要だろうと思っています。

お子さんが中学生になられた方にお声かけしてみましたが、時間が出来たので正社員になれました、などと言われてしまいました。それは喜ばしいことなのですがそういうことでボランティア活動に取り組んでもらえないのが実情です。

私は一切、自治会には顔出ししていませんが、自治会長を終わった方から子どもサポート委員会に何人か入ってきていただいています。そういった方の体験やお気持ちを何とかつくりながらと思っていますので、自治会長を終わったら、是非、次世代を育成していく子どもサポーター、あるいは地域の子供に関連するコーディネーターになっていただけないでしょうか。市からもそういった手助けの後押しをしてもらいたいと思います。

《福祉ボランティア支援》

意見 社会福祉協議会がボランティアをたくさん抱えています。それで小さな団体に対しても市側が支援金を出していく。そうすると当然その報告、実績が出てきますよね。それが10、20、30になれば、あっという間に広がってくるのではないかと考えているので、社会福祉協議会のボランティアの集め方、支援の仕方を、ちょっと参考にさせていただけたらなと思っています。

市長 ボランティアポイント制度というのは始めているのでしょうか。

福祉部長 市長が申しあげましたボランティアポイント制度というのは、昨年策定い

たしました「すこやかプラン・川越」の中で、お元気な高齢の方がたくさんいらっしゃいますので、生きがいづくりの一環として、支える側、ボランティアとしてご活躍いただくという制度を今後立ち上げていく予定でございます。

今考えているのは、来年度中に介護支援ボランティアというくくりなのですが、そういった中で、ポイント制を採用してやっていきたいと考えております。そして、介護支援ボランティアということで、来年度立ち上げていく予定でございますが、今後、お話のあったようなことを踏まえまして、社会福祉協議会とも意見交換をした中で、検討させていただきたいと思っております。

ただ、福祉部として考えているのは、お元気な高齢の方が対象ということでございます。ですから、中学生、高校生なりの親御さんという部分ではないのですが、多くの市民の方に、そういったボランティア活動に加わっていただくような仕組みを、今後、検討していきたいと思っております。

市長 今、ボランティアポイント制度というお話を出したのは、社会福祉協議会のボランティア制度というお話が出ましたので、福祉部長から説明してもらいました。

これは高齢者福祉の分野に特化した制度でして、元気な高齢者の方が、例えば介護を要する高齢者の方の日常生活なりなんなりをサポートすると。何時間それをやったら、ポイントを差し上げて、そのポイントがたまると、今度は自分がそういう立場になったときに、無料でサービスを受けられるとか、あるいはお金のかわりに何かを買えるとか、そういう一定のメリットを与えるという、そういうようなやり方で、一方では、その元気な方に体を動かしていただくことによって、健康を維持していただく。一方では介護を要する人に、あまり費用のかからないサービスを利用できるようにしようという、そういう考えの制度です。

それはそれとして、御意見にありましたように、今どこのボランティアの世界でも後継者や人手が足りないと言われておりまして、典型的なのは自治会だと思っております。自治会もボランティア制度ですよね。それが自治会員のなり手がなく、役員のなり手がなくということで、どこの自治会でも悩んでいらっしゃるという面がございます。そういう世界、ボランティアの世界に多くの方に入ってきていただくというのは、かなり大きな課題になっています。高齢者の方がふえて、お元気な方ももちろんふえているわけですから、せっかく何十年も培ってきた知識であるとか経験であるとかノウハウを、地域のために何らかの形で使っていただけるというのが、一番地域にとってもプラスになります。また、ご本人にとっても、自分の中に蓄えてきたものを、そ

のまま朽ち果てて、頭の中で朽ち果てさせるよりは、やはり一定程度の活動に貢献できたほうが、いろんな面でプラスであろうということで、何とか工夫が必要なところなのですが、これという決定打がないというのが現状です。

地域のことは、その地域に住んでいらっしゃる方が一番よくご存じなわけですから、あそこに、ああいう経歴の人がいて、力になってくれそうだから、ちょっと引っ張り込もうよとか、そういうような形で少しずつふやしていくより方法はないのではないだろうかということが1つあります。

また、ボランティアポイント制度のように、一定程度、地域のボランティア活動をしてくれたら、何らかのメリットを与えるという、それも1つのやり方であると考えているところです。行政としてもいろいろな自治会を含めて、ボランティアに人が出てくれるような、そういうことを一生懸命考えているところではあります。

意見 福祉の話になってしまいましたが、私は子供のほうのことなのです。福祉は福祉で、私の今やっている福祉支援は対象になるかなと思いながら、社会福祉協議会に登録した「かるがも」というグループがあります。車椅子の扱い、そして目の不自由なアイマスクのことを、学校に行って児童たちに指導して、そこから生まれる思いやりを引き出すために行っています。年間15～16回、行っているのですけれども、特に最近は中学校からお呼びがかかってきまして、このエリアの霞ヶ関東中学校には年1回、2日間行っています。来月早々に山田中学校まで行くのですけれども、入間川から西の地域は全部引き受けますということで、会員も少しずつ少しずつふやしながら、約20名で活動しており、会員は福祉関係の体験がある方たちです。もしもポイントがもらえるのだったらもらいたいなと思います。うちの会員も喜ぶだろうし、会員もふえるだろうと。

川越市もそういうボランティアをするにあたり、認めてもらったというのがボランティアの最大のもので、ボランティアをやっている中で、実は家庭が陰で引っ張って足どめするのが多いです。そんな中で、市長の名前の感謝状というのは、これは重いものだと思います。川越市のトップである市長がそれを渡すということは大切なことだろうなというふうに思っていますので、ご検討いただきたいと思います。よろしく願いいたします。

《学校、地域間の人的支援》

意見 3年前、霞ヶ関北小学校の校長を拝命したときに、市長とお会いする機会がございました。教育について、とても大切に考えているので、何かあったら本当に遠慮なく話をしてほしいというお話をさせていただきました。本当にありがたいなというふうに思っています。今も常日ごろから学校にご支援いただきまして本当にありがとうございます。

先ほどの子どもサポート委員長さんに霞ヶ関北小学校も大変お世話になっておりますし、常日ごろから、ここにいらっしゃいます自治会長さんとは、本当にいろんな場で、いろんなことを話させていただきながら学校を支援していただいております。

学校というところは、学校だけでは当然何もできません。保護者の方を始め、地域の方々、皆さん方に本当に支援していただいて初めて成り立つところだというのは、校長として本当に実感しております。

その中で今、人の人的支援というところの話がありましたので、せっかくの機会ですから、私を感じることを1つお話しさせていただきたいと思っております。

学校現場で感じているということでお聞きいただければと思うのですが、学校は人的支援が本当に必要で、教職員だけではやっていけません。私は中学校も経験しましたし、小学校も経験しておるのですけれども、特に小学生は定数が少なく、教職員の数も少ないんですね。そんな中で、地域の人材活用ということで、地域の自治会長さんの方々においでいただいて、学校からの情報発信として個別の学習支援ですとか、見守り支援をお願いいたしました。今進めさせていただいているところですが、自治会長さんにも支援していただいて、学校として人材バンク的なものがつくればいいのかというふうにも思っています。

そんな中で、一番感じているのが子供たちの多種多様化なんですね。発達障害等を含めた子供たち、本当に多くの子供たちが学校にはいまして、教員1人で学級を運営していくのは本当に難しくなっています。そんな中で、やはり多くの方々に子供たちの健全育成のためにかかわっていただきたいと校長として思っています。

スクールランチの方だったり、自立支援サポーターの方だったり、臨時指導員の方だったり、市としていろんな方々を配置していただいているんですが、まだまだ正直足りません。地域の方々の人材をたくさん活用できればなということも1つ考えており、いろいろな方たちに支援していただいているところですが、もう一点は、本校だけではなく、どの学校も多分同じだと思うんですが、ぜひ市としても学校の現状を

把握し、人的支援をしていただくために、学校教育にも予算を配置していただきたい
と思います。今お世話になっているのがスクールボランチの方、自立支援サポーター
の方、臨時指導員の方なんですけれども、子どもたちのためにもっと多く学校に配置
していただけるとありがたいなと思っています。学校としても、いろんな手だてをと
って、地域の方々にご協力いただけるよう、教職員一同でやっているところでござい
ます。是非、そんな現状もご理解いただければありがたいと思います。よろしくお願
いします。

学校教育部長 日頃より、ご尽力をいただきましてありがとうございます。また、校
長先生方からもいろいろなご意見をいただきまして、本当にありがとうございます
た。

これまで学校というのは、どちらかという地域に協力や支援を求めるというだけ
だったような気がするんですね。でも、やはり地域の諸事情を考えると、今度は学校
が地域にという部分も必要なのではないかと思います。

私も戻れば学校の管理職になるわけですが、以前勤務していた川越西小学校の川鶴
地区も非常に高齢化が進み、子供がいないというような状況で、特認地区でもって
いるような感じでございます。そういう中で、地域の方をどうやってつなぎとめて行け
ばいいのか、また学校も何かできないのか、ということを考えて、2年間しかいられ
なかったのが実現はしなかったのですけれども、学校内に地域の部屋をつくり、暑い
さなか、また寒いさなか、子供たちのために、見届けや見送りをしてくれるボランテ
ィアの人たちにいてもらえる部屋をつくりたかったんです。また、その人たちが学校
に集うことで、地域の人たちのつながりができたり、それでまた学校に支援をして
くれるネットワークができればいいなという思いでやっておりました。途中で少し頓挫
してしまい、なかなかバトンがうまく引き継げなかったようですが、それでも現在も
行われているようです。

そういう中で、子ども地域サポートも、イベントだとか本当にいろいろな体験によ
って子どもたちは心豊かになるものですから、ああいうことが本当に大切なのだと私
も思います。今後もお願いしたいという部分と、川越は急にはなりません、子ども
の数も減ってきますので、そういうところの利用という部分も含め、また地域に貢献
できたらなという思いでおります。御礼の言葉を含めてでございます。

《介護予防における、自治会館の必要性》

意見 私たちは地域の方とかかわるといって、介護予防教室などを自治会館などで開催させていただくということが中心になっています。霞ヶ関北地区は、本当に地域の方の活動が活発で、いろんな活動の受け入れもとてもいいので、私たちが活動するにはとてもやりやすい地域なんです。ほとんどの自治会で介護予防教室が行われていて、私たちがちょっとお手伝いすると、自治会の方がどんどん進めてくださるということです。そのことで閉じこもりがちだった高齢者も出かけてくれるようになったり、引っ越したばかりの方が地域の方とつながれたりということで、元気になって介護保険の申請を遅らせることにもつながっているのではないかなと思います。

先ほどお話のあった自治会館では、昨年のお芋ふかしをやったんですけれども、本当に狭くて、川越で一番人数の多い教室だったのではないかなという感じで大変でした。それでも、ご近所なのに会ったことがなかった方たちが交流でき、元気になっていただいて、あんなに狭いところだけれど続けたいということで活動を続けたり、また工夫したりということをしています。

その様子を見ると、この地区の拠点となる市民センターが充実していくことは、すごく大事だと思います。市民センター構想はすごくいいなと思うのですが、高齢者になると公民館まで行けないなどということが課題になってきますので、自治会館の機能が充実するということが、高齢者を支えるというところで結構大切なポイントではないかと感じています。

ですから、建物がきちんとしているということ、先ほどお話がありましたスロープがあるとかというハード面もそうですけれども、何か使い方を考えていくとか、もっと機能を持たせるとか、そんな構想があってもよいのではないかなと思いました。

人がつながることが地域を活性化することだなというのは、日ごろも感じていますし、きょうの発言でもたくさんありました。高齢者だけが時々鍵をあけて使うとか、子ども会や育成会が鍵をあけて使うとかではなくて、異世代の交流もできるとか、いろんな立場が交流できるというか、情報交換もできるような、そんな機能を自治会館が持てるような構想を市で持っていたらと思います。自治会館が何か拠点になったらよいのではないかなというのを感じました。

市長 ありがとうございます。一つのご提案といいますか、ご提言として受けとめさせていただきます。検討させていただきます。

市民部長 今回の交流の場というご意見なんですけれども、先ほどもいろいろな人が交流をして、その中から人材を見つけるというお話がございました。1つ事例としては、最近では自治会などがコミュニティーカフェというのをつくっています。これは、どんな人でも立ち寄れて、自分の時間をそこで過ごして、話をしたりして交流をしながら人材を見つけていくというようなものです。

今年度 20 万円の地域会議の補助金というものを創設いたしました。まだ始まったばかりですが、川越市の 1 つの地域会議でその補助金を使い、公民館の一角に、月に何回か 100 円で何時間いてもいいというようなサロンのようなものをつくり、コーヒーや簡単なお菓子みたいなものが出て、今まで地域に縁がなかった方をどんどん輪の中に取り込んでいこう、というような取り組みもあったりします。まだ決まったばかりなので、詳しくご紹介できる状況ではないのですけれども、そういった取り組みもございますので、今年度創設いたしました地域会議補助金を、ぜひ活用していただきたいという宣伝も含めまして、そんな事業があるということでご紹介を申し上げました。

市民部長 それでは、本日は、貴重なご意見、たくさんいただきましてありがとうございますございました。

また、いろいろ宿題もいただきまして、時間を頂戴して、市のほうで検討していかなければいけない課題、あるいはすぐにお答えしなくてはいけないような宿題もいただきましたので、それぞれ整理をいたしまして対応させていただきたいと考えてございます。

市長 本日はお忙しい中、ご出席をいただきまして、大変貴重なご意見を多数頂戴しまして、本当にありがとうございます。

いろいろなご意見、あるいはご提案をいただける場合は、このタウンミーティングだけではなく、市民意見箱に入れていただいても構いませんし、具体的にご要望いただくような形でも構いません。これからも地域をさらによくしていくために、いろいろなご提案、あるいはご要望を頂戴したいと考えます。どうぞよろしく願い申し上げます。

本日は、本当にありがとうございました。